

第4回 福井市都市計画マスタープラン等策定委員会 議事録(要旨)

日 時： 令和6年4月25日(木) 14:30~15:50

会 場： 福井市 上下水道局庁舎5階 大ホール

出席者： 別紙のとおり

事務局： 福井市都市政策部都市計画課

【議事内容】

○事務局

<(1) 都市づくりの目標の推進方針について説明>

○委員長

都心部はわりとぼんやりと描かれているような感じがするが、こういった感じでいかれるのか。もう少し明確にエリアを作るなどといったことがあれば教えてほしい。

○事務局

都心部の範囲の考え方については、中心市街地活性化基本計画(計画終了)において、もともとの範囲が福井駅西側寄りになっていたところを新幹線が開業したため、福井駅東側の方にもにぎわいを広げていく。それから、地域資源である足羽川も含め回遊性を高める1つの流れをつくっていくということで、今回の範囲を設定している。ご指摘のように、範囲が抽象的だということは、20年後を見据えたときに、ある程度幅があってもいいかなということで設定している。

ある程度の地形地物で範囲が示されていないというご指摘だと思うが、この20年間でいろいろと関連する計画において、範囲がわかりにくくなるというのは避けたいので、ある程度広範囲な、明確になるような地形地物等の記載は、今後工夫していきたい。

○委員長

範囲を東側に少し拡大することも含めて、今後検討されるということでよろしいか。

○事務局

今後検討させていただきたい。

○委員

8ページ「身近な生活空間づくり」のところで、駅を中心としたまちづくりが少子高齢化になってくると重要ではないかなと思う。そして、若者が中心地へと通学・通勤に向かう際に、道路事情によって変わってくると思う。駅を中心としたまちづくりと、それから朝夕の道路の事情

によって街の様子が変わってくるので、高齢の人が、十分にそのまちを活用できるような交通網にしていただけるとすごく助かる。その点のところをもう少し説明をお願いしたい。

○事務局

朝夕の道路状況や、交通の状況、実態に即したような形でというようなお話かと思う。マスタープランでは大枠の部分、骨組み的なことで移動について書かせていただいている。より詳細な部分を書けるとすると、次回以降ご検討いただく分野別構想で書いていけるかなと考えている。

また、朝夕の渋滞のことについては、15 ページの下から 3 行目で「慢性的な交通渋滞等の緩和に向けた対策の促進」などという形で書かせていただいている。

○委員

マスタープランとしては全体的にこういう形かなと思う。20 年前から現在まで、こういう形で都市計画がされてきて、次の 20 年はこういう形になっていくのかなと思う。

今回の計画は、民間の力を入れるような、そういうことも少し考えながら、都市計画をやってくつてというのは、多分されてないかなというふうに思う。また、こういった計画を作るにあたって、若手の職員が視察に行っていたかと非常にいいのかなと思う。

○委員長

民間活力の導入はその通りだと思う。これに関してどこかに書いてあるか。

○事務局

7 ページの「関連・連携する主な推進施策・事業」のところで、民間の取り組みを支援していくなど、民間の促進等ということを書かせていただいている。今後、分野別構想でも今回のご意見を参考に整理していきたい。

○委員

3 月に新幹線がきて、JRがハピラインふくいに変わってから、通学時間帯の車両が今まで 4 両だったのが 2 両に変わり、高校の生徒さんが乗り遅れたりして大変になっている。ハピラインふくいにも話をしてほしい。

○事務局

ご意見を参考にさせていただく。

○委員

20 ページの「4 つの視点から見た将来の都市の姿」というのは、すごく構造化されておりわ

かりやすいと感じるが、これは平常時のことかなと思う。非常時や緊急時に、例えば私たちがどのようなルートで避難できるのかとか、実際家を失った場合に、どこに拠点を持てるのかみたいなことをイメージできるかというのかなと思う。

福井市で、例えば海岸線沿いで何かあったときに、どのように私たちが入るのか、例えば建築士がどのようにそこに入るのか、逆に海岸に住んでいる方がどのように市内の方へ避難できるのかみたいなことが、今回作っていただいた骨格の中で、どのように応用できるかというレイヤーがもう1枚重なるといいのではないかな。例えば今回、青丸で拠点をつくっていただいたところが、実は避難場所になるなど、緊急時に置き換えた絵がもう1枚あると、今後この構造のまま使えるのかなと思う。そういうのがあると、何か違うことが起きたときには、こういう違う使い方の拠点になるんだなとイメージしやすいのかなと思う。

○事務局

緊急時の体制、拠点、移動については、9ページの都市防災化方針図というところで、緊急輸送路や防災の拠点と避難所等を載せている。防災都市づくりについては、現状のマスタープランでは、防災まちづくりというところで書いている。

今回の改定では、分野別構想に入っていく中で、防災都市づくりをどうしていくかということと、今後検討していくことになると思うので、今いただいたご意見を参考にさせていただきます。

○委員長

福井市防災計画というのがあるのか。それとマスタープランが連動して、公民館はどういう役割とか、連動性というか。そちらには明記されているのか。

○事務局

福井市地域防災計画というのがある。9ページの拠点や避難所については、地域防災計画を踏襲し、落とし込むような形で作っている。

○委員

ご意見の中で災害のことが出てきたが、福井県は原発も含めた色々な施設があるので、福井市にあるわけではないが色々なことを考えていけないといけないという中で、防災上の連携を考えていけないといけないのがポイントかなと思う。

9ページの中に「自助・共助」、「連携」というキーワードがあるが、その中に委員からご意見のあった広域連携というようなキーワードがあってもいいのではないかなと感じた。福井市の場合、すでに枠組みが整っているかと思うので、20年を見据えて広域連携っていうのも、ここに1つ組み入れていくといいのでは。

あと、「自助・共助」、「連携」というキーワードについて、少し難しいが、よくあるのは自助・公

助・共助・協働を組み合わせることもある。これは参考意見である。

○事務局

いただいたご意見も踏まえながら、9 ページの書き方や、分野別構想で参考にさせていただきたい。

○委員

4 ページの「都心部」の考え方について、中心市街地活性化計画の時のエリアも終わったので、そのエリアを広げる話があって、20 年後なので、そのあたりはあまり厳密にすると、それが逆に線をつけるようなことがないようにという主旨は理解する。

一方で、明確に足羽河原の広い所を含んでいるということと、東口も荒川のエリアで物理的に切れるようなことになると思う。図を見ると、そのあたりが曖昧というか、川辺が入っているかどうかというあたりは、抜いているような感じがする。でも、実際、活用してということが書いてある。その辺を仕組みだとか、図面上できちんと整理する必要はないが、その辺をきちんと含んでおく、ちょっと大きめに書いておくということと、運用でどうにかだが。

説明を受ければわかるが、そうでないと、周りの残像が残っていて、エリアを広げることはあまり意識しないから、明確に改定するときにはそこまで含んで、これを都心部という扱いの中で積極的にいろいろ都心としての機能を誘導し、活用していくと言うには良いタイミングだと思う。それを明確に言う必要があると思う。それは曖昧にしたら逆に駄目ではないか。言葉でしっかり言う。図面では線を一本きれいにひくことはなくてもという感じはする。

もう 1 点、「水と緑の空間づくり」は非常に大事。あと、自然災害のことを考えると、土地を見守る、守ることも大事。荒れた山があれば、それによって水が出てしまうことがあるので、その辺りの治山治水のこと。そのような関係も併せてやらないと、ただ守りますとだけ言っていた結果、守る人がいないという話になる。

先ほども出たが、まちなかの防災もそうだが、その奥のところのこともしっかり。福井は海岸から美山のところまで入っていることを考えると、もう少しその辺りは言っておいたほうがいいのかという気がした。

カーボンニュートラルのことも話されていて、そのエネルギーをどう確保するかということもある。今、県でも環境基本計画の中で、49 パーセント減らしますというのと、それをどう減らすと言ったときに、自然エネルギーの活用も結構出ている、特に、風力に結構大きな割合を占めて提供している部分がある。

福井市も国見岳の方で風力が動いている。環境影響評価のアセスや地元説明をやっていると思うが、ただそれだけでなく、太陽光パネルのように大規模な、いろいろなところへ行くと、こんなものもあるんだ、これ眩しくないのかなとか、大丈夫かなとか、いろいろでてきているものがあるので、そういうこともこのエリアで。まちなかに住んでいる人は、そんなこと見えてないが、奥のところまで広く考えれば非常に重要な部分が、強まっていると思う。そこの

調和も図らないと、うまくいかないのかなという気がするので、この辺りを意識しているかどうかがよく見えないかもしれないなというところは懸念としてある。具体的にどうしたらということまではすぐには申し上げられないが、意見として一つ言わせていただく。

○事務局

都心部について、水と緑の空間づくり、環境の保全について、いただいた意見をもとに関係課の方としっかり話をしながらどのように記載していくか検討させていただく。

○委員

資料 15 ページの現在の都市の姿についてだが、福井は車社会なので、道路の整備状況は重要な視点ではないかなと思う。「移動の骨格づくり」を実現する主な施策事業の 5 行目に赤字で「福井外環状道路」と出てきているが、市街地道路網整備方針図には入っていないかと思うが、大体どの辺をイメージされているかというのが 1 つ。

あと、「未整備の都市計画道路については、整備の必要性を検討しつつ、計画的な整備を進める」という文章がある。図の中に未整備の都市計画道路が何本か書かれているかと思うが、今現在、都市計画道路の全体の中の何割ぐらいが既にもう完成して、大体いつぐらいまでにその残りは整備を進めるようなイメージなのか教えていただければと思う。

○事務局

福井市は東側に国道 8 号線、北陸自動車道が南北で通っており、ある程度その大きい幹線道路がある。図では外環状道路をあえて丸で書いている。まだ構想段階で全く計画が立っておらず、大体これぐらいの位置ということで、市街地の西側を通る場所で、外環状道路の構想がある。

都市計画道路の話については、福井市と県が都市計画道路をそれぞれ持っており、福井市の話を見せていただくと、未整備の路線は残り 11 路線ある。今整備をしているところもあるが、例えば環状西線や県道 416 号線、都市計画道路でいうと福井川西線という名前になるが、そういったところも整備していく。

道路事業は、計画が立ってから進めていくため、とても時間がかかる。いつまでにというのはなかなかお答えできないが、ある程度優先順位というか、影響力のある道路を選定して整備を進めている。

○委員長

図の破線のところが、計画道路の未整備路線ということでよろしいか。

○事務局

そのとおりである。

○委員

資料 11 ページの、少子高齢化も進む中での身近な生活をつくる、住み続けるというところ。私の思いとしては農村地区だけが田舎ではなくて、市内の中でも本当に駅に行くまでに 30 分や 1 時間かかるところはとても多い。この中で、住みやすいまちをつくりながら、考えとして平均値のところの人たちを移住させるという目的がこの中に入ってるのかはわからないが。僻地や農村の人が防災の視点でも、幾らデジタルの時代でも人が少なくなると、色々なコミュニケーションがとりにくくなるので、僻地の人たちが少し日常生活圏に住めるような、移住計画みたいなのを、20 年後を考えると、入れてもいいのではないかと思う。

私たちの時代になると、20 年後だったら、この家を守らないといけないなという思いもあるが、それでも自分の身を守るために、もう少し街に住みたいという人がどんどん増えてくると思うので、この何年後かを考えて、そういった移住計画とか、住みやすいところに住むという形。ハレーションを起こすのかもしれませんが、入れるとわかりやすいのではないかなと思う。

○委員長

コンパクトシティ、都市への集約化というところも関係してくると思うし、そういったところの実践化方策としては、住みかえを誘導していくというのはあると思う。施策としてはどうか。

○事務局

委員長からもあったように、都市計画としてコンパクトシティを目指していく、都市部の住みやすい基盤が整備されたところに人を集めていきたいという思いはある。そのための制度として福井市でいうと、区域区分(市街化区域や調整区域)で街をむやみに拡散、拡大させないような運用を行っている。

防災の視点から立地適正化計画の中に、災害リスクを踏まえた上で居住を誘導していく居住誘導区域という区域がある。そういうところを防災の視点を取り入れながら考えていくことを、現在マスタープランと合わせて検討しており、そのようなところでお示しさせていただきたい。

移転というとても前向きなご意見だが、今のところ福井市としては施策として打つことは考えていない。まずは皆さんにそこがどういう場所なのかしっかりお伝えして、すぐにはいかないが長い目で見て、次に住むときに、どこに住みたいか、というのをしっかり考えていただけるように、情報をお伝えしていきたいと思う。

○委員長

大変考えさせられる。災害が起こったときに、そういう問題が 10 年 20 年早く進んでいくわけで、そういうところも事前復興の意味でも大事なことかなと思う。検討課題ということで、

お願いしたいと思う。

このマスタープランは委員がおっしゃったように、以前からのコンパクトシティの流れを受けて、かなり煮詰まってきたいい計画だとは思っているが、一方で実現化していく手法というふうに見ると、昨今の時代になってくるとなおさら難しくなってきたというのが、年々僕も感じている。

だから、具体的な施策として各事業施策を書くのはいいかもしれないが、なかなか難しいとなったときに、他の事業や施策との連動性を密に高めていくことが実現化していく方法かと思う。その辺は運用ということになると思うが、連動性の中で事業化していくとか、実現化していく、社会実装化していくということをぜひお願いしたいなと考えている。

○委員

マスタープランの中で、福祉という言葉はあまり出てこないなと気づいたのだが、例えば20年後を考えて、高齢者や子どもをどのように守っていくかということ考えた場合、今、福祉の考え方はとても多様化していて、地域に事業化していこうという話もあるが、この「身近な生活空間づくり」については、推進のカテゴリーの中に、福祉みたいな観点を入れるといいのかなと。

そうすると、例えば私たちが75歳くらいになって、免許を返納したら、公共交通機関で病院に行きたい。そこに福祉の拠点があるみたいな、イメージできるようなキーワードが入ってくると福井に住んでもいいかなと思える、マスタープランにならないかなと思った。

○事務局

地域拠点という中に、医療福祉という機能を含めていくところを書いているが、より詳細に書いていこうと思うと、分野別構想に福祉のまちづくりの部分に記載していくというような状況になる。

今のマスタープランでは、福祉については正直バリアフリーとか、そういった部分にしか書ききれないが、今後、分野別構想に記載していこうと考えている。

○委員長

大事なご指摘だが、先ほどの連動の話になるが住宅マスタープランの策定をしたときに、都市計画の連動と福祉の連動というのを表題に掲げた。そこまではいかないにしても、生活圈を作ってくときの福祉の生活圈との連動性を高めるとか、政策を連動するとか、そういうことは書いてもいいかなと思った。

○委員

地域拠点は元気な人の拠点みたいなイメージがあるので、あんまり動けない人でも拠点を持っているというようなニュアンスがあれば寄り添えるかなと思う。

○事務局

今のご意見も踏まえ、再度検討して書き方を考えていきたい。

○委員

4 ページの「多様な拠点づくり」のところで、下の赤字に「アクセスできる歩行者空間を確保するとともに、水や緑を活用したオープンスペースや人だまり空間の確保、表と裏をつなぐ路地空間の確保」と書いているが、はっきり表と裏って書いていいのか。表通りと路地裏通りって理解すればいいのか。

街路樹で道路が狭くなると歩きにくくなるのではないかなと思ったので、表と裏と表現していいのかなと思った。

○委員長

表と裏というのはどういう意味なのか、説明いただきたい。

○事務局

例えば、6 ページに書いているのは大きい通り。そういうところから路地に入る、より中の方に入っていくということを表と裏という形で書いている。確かに誤解を生むというか、表現として疑問が出てくる書き方になっていること自体が見直しの検討の余地があるのかなと思う。表現の仕方については、関係課とも話をしつつ、検討させていただきたいと思う。

○委員長

それではこれにて会を終了したい。次回は、分野別構想及び地域別構想についてのご意見をいただきたいと思う。

○事務局

終了にあたり、事務局よりスケジュールについてお知らせさせていただく。

第 1 回の策定委員会でお示した策定スケジュール案は、今回の第 4 回を令和 5 年度中に開催し、次の第 5 回を 5 月下旬に開催する予定となっていた。これまでの大雪での開催延期したことや、上位計画の策定が今年度になること、地域別構想の策定に当たり、昨年実施したアンケートだけでなく、地元のご意見を伺う機会も加えていきたいと考えている。以上のことから、スケジュールを再度見直している。今後の予定は詳細が決まり次第、改めてお伝えさせていただきます。